

# 浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

## 「解脱の光輪きはもなし」

慈光照護のもと、門信徒の皆様にはますます  
すご清祥にお念仏ご相続のことと慶賀に存  
じます。

私たちお念仏のみ教えをいただく者が恵  
まれているのが、『お浄土』という、煩惱を離  
れた清らかな世界です。お経には、「ここよ  
り西の彼方、十萬億の仏の国を過ぎたところ  
にある」と書かれてあります。おそらくお釈  
迦さまの時代のインドで、太陽や月や星が沈  
んでゆく西の方角を、私たちのいのちが還つ  
ていく世界と重ね合わせて表現されたので  
しょう。現代の科学の進んだ時代の教育を  
受けてきた私たちは、どうしても学んだ『知  
識』とか、自分のはからい（分別）で物事を  
見て、自分の理解の範囲内で決めつけようと  
してしまいます。私も以前は「地球は丸いん  
だから、ずーっと西に行ったらまた戻って  
くるじゃないか」とか「だいたい十萬億の仏の  
国つてどこにあるの？」などと考えていまし  
た。でもいろいろ聞かせていただくと、阿弥

### 永代経にお参りください。

### 6月27日（木）ヒル2時・ヨル7時

陀さまのお慈悲は『不可思議』なのだそう  
で、これは現代の『不思議』という意味ではなく、  
思議（思いはかること）が不可（できない）、  
つまり『人間のはからいをはるかに超えた』  
ということなのだそうです。だから、浄土が  
あるとかないとか、あるのならどこにあるの  
か？などと考え、どうしても疑ってしまう私  
の思いなどをはるかに超えた大きな、際（さ  
わ）の、時間も空間も超えた真実・真如（しんじゆ）の世界が  
お浄土なのでしょう。私たちの知識では理  
解しようのない世界ですから、『そのままお  
まかせ』するしかないので。

私たちがご本尊といただく阿弥陀如来も、  
アミタというインドの言葉を漢字にしたも  
ので、アは否定、ミタは量ることができない  
という意味なのだそうです。何を量ること  
ができないのかというと、いのち（慈悲）と  
光（智慧）です。正信偈の冒頭には、『帰命無  
量寿如来 南無不可思議光』という二行があ  
ります。「いのちの限りない如来に帰命し、  
不可思議の光の仏さまに南無（帰命）したて  
まつる」と、親鸞さまが一番最初に一番肝心  
なことを述べられています。もちろん、いの

ちと光の限りない如来様、つまり阿弥陀如来  
におまかせするしかないという結論から述  
べられているのだと思います。如来という  
文字も、「真如の世界から来た」ということを  
表します。阿弥陀さまの救いには条件があ  
りません。すべてを救うとのお誓いです。  
そのことを親鸞さまは『解脱の光輪きはもな  
し』と喜ばれたのでしよう。

ところが現実の私たちの生活は際（さ  
わ）だらけです。受験や就職、お金持ちか貧困かで、人  
間を勝ち組・負け組などと区別して呼んだ  
り、他人とのめめ事、となりの家とのめめ  
事、となりの国とのめめ事、きりがありませ  
ん。自分が一番かわいいのは煩惱のはたら  
きですから、他人と自分を同じに思うことな  
どできようはずありません。それができ  
るのは仏さまだけなのでしょう。阿弥陀さ  
まのお慈悲は、私だけでなくすべての有情（う  
じやう）に回向（えうきやう）されています。差別どころか区別もな  
い世界がお浄土なのです。ある宇宙飛行士  
がスペースシャトルから地球を見たときに、  
「国境がなかった」と感想を述べられたそう  
です。何もないところに線を引いて、自分の

国、よその国と争わなければならないのは悲しいことですね。阿弥陀さまのたいなる願いにおまかせして、お念仏の日々を送りたいと思います。

## 「永代経法要のご案内」

日	14時〜	19時〜
27日 (木)	速夜 佛説無量寿経 四十八願 法話二席	新制 佛説観無量寿経 法話一席

福井市教應寺住職

ご法話 本願寺布教使

奥田 順誓 師です。

永代経法要とは、この娑婆(しやば) (インドの昔の言葉の「サハー」の音を漢字にしたもの。意味は『堪え忍ぶ』ということ) 世界を離れて、浄土に往生された皆さん方のご縁の方を通して、このお経が、このみ教えが、このお寺が、永代にわたって受け継がれていきますようにと願ひ、私が仏法に遇わせていただく尊いご縁です。他人事ではありません。私の生死(しよじ) 出(い) ず(い) べき道(みち) (迷いを離れて浄土に生まれてゆく道) を聞かせていただくのです。例年夜のお参りが少ないので、「今年は朝と昼のお座にしませんか」と住職に提案したのですが、「昼は仕事で夜しかお参りできない方も

いらつしやるから」と反対されました。その通りでした。どうぞ夜のお座もございませので、お仕事の方もお参りくださいませ。

## 「御仏供米(御膳米) について」

なお、昨年同様、『御仏供米』はレジ袋を重ねたものに入れて、記名の上お持ちください。ご門徒の皆様がお供えしてくださいましたお米を、永代経の日に本堂にお供えし、その後は毎日炊いたらお仏飯として阿弥陀さまにお供えさせていただきます。お一人暮らしなどで持つてくることができない場合は取りに伺うこともできます。または、『御膳米料』としてお供えいただいてもかまいません。昨年の永代経には、12名のご門徒様から『御仏供米』をお供えいただきました。

## 「本願寺新報を読もう!」

浄土真宗からは『本願寺新報』という新聞が出ています。存知ですか? 意外に

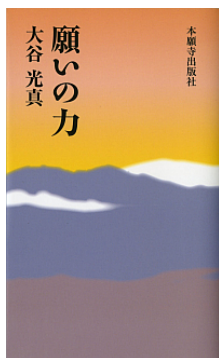


知らなかったという人が多いのではないのでしょうか。『本願寺新報』は門信徒の方々の新聞です。宗門の動き、社会問題、やさしい

法話、童話のページなど新しい情報が紙面いっぱい。1日・10日・20日と月3回発行で、1面と最終面はカラー写真を豊富に使ったカラフルな紙面づくりを行っています。一家に一紙、ご購入をお勧めします。年間4千80円です。お申し込みはお寺までどうぞ。

## 「『願いの力』を読もう!」

ご門主の著書が出ています。限りある人生。めぐまれないのちのよろこびをどう味わうか。その手がかりとしてみませんか? お値段は735円です。本屋に行けない人は、お寺から注文しますよ。



※来寺のお約束や、お参りの変更など、重要なことは必ず携帯にお電話下さい。出られなければ留守電に入れてください。こちらからご連絡いたします。

住職 内嶋洪淳(うちじま こうじゆん)

090-8261-3090

若院 内嶋淳浩(うちじま あつひろ)

090-8967-7902

メールアドレス

soichiro4989@gmail.com